

教室から、未来はつながるのか？

「三角関数って、将来いつたい何の役にたつのだろう？」

「漢文や古典の知識って、必要なの？」

受験システムの渦の中でもがいていた頃、ふと感じた疑問。

この問いに真摯に向き合ってくれる先生は、残念ながら私の周りにはいませんでした。

今この時期、我慢して乗り越えさえすれば…。

そして、社会人になって、大学生の就職活動を支援するメディアに関わっている頃、

「自分はいつたい何者なのか」「やりたいことが見つからない」と

多くの学生が自分探しの旅にハマり、その状況から

抜け出せない姿をたくさん見てきました。

彼らの多くに共通していたのは、

大学や専門学校で学んできたことがあるはずなのに、活かされていないこと。

自分を「再定義」し、自分の「未来」を描いては消して、また描く。

学校で学ぶことは、すべて社会とつながっているはず。

先生方も同じ思いで、授業や学校生活を通じて、

生徒と接しておられることと思います。

でも、もし学校での学習が、繰り返し返されるテストや

受験のためだけになっているとしたら、授業は辛い時間になりかねません。

いま伝えたい。

なぜ学ぶ なぜ働く



今回の特集は、そんな私自身の原体験も企画の出発点にあります。学校での勉強は、仕事に本当に結びつくのだろうか。社会で働く人は、学校での勉強が役立っているのだろうか。

ある意味、古くて新しい、新しく古いこのテーマを、どう考えてお届けすればいいのか。

今回、立命館宇治高校の酒井先生、田内先生をはじめとして、

多くの方々のご協力を得て、編集部としての考えをまとめました。

ご紹介する方法以外にもさまざまなアプローチがあると思います。

もし、生徒に尋ねられたら、読者の先生方ならどう答えられますか。

もしくは、生徒にどのような問い掛けをされるでしょうか。

ぜひ取組みのきっかけや参考になればと願っております。

生徒が毎日過ごす教室から、

生徒たちの未来が広がっていきますように。

山下真司(本誌 編集長)



Chapter 1

学ぶ・働くをつなげるキャリア教育

Special Interview 文部科学省／国立教育政策研究所 長田徹

Data Topic 社会で生きる、教科で培われた力

Chapter 2

生徒が発見！今なぜ学ぶのか

立命館宇治高校 × キャリアガイダンス編集部

特別授業「なぜ学ぶのか？」

教科別 未来につながる授業実践事例

ビジネスプレゼンを意識した英語／働くことについて考える国語

協働のスキルを身につける漢文の授業／生きるうえで必要な知識を学ぶ生物

「人間コピー機」を育てない数学／「考える学問としての日本史」授業

Chapter 3

働いてわかった！教科×仕事

社会人14人に聞いた「この教科が仕事に生きている！」

変化の時代に活躍できるのは、学んできた人・学び続けられる人

慶應義塾大学大学院 特任教授 高橋 俊介